



小 原 里 司 さん (75)  
恵 子 さん (67)  
＝衣川区古戸＝

## 雨の日も晴れの日も

●どんなときも一緒に素敵な夫婦を紹介

衣川区古戸で地域の人に愛されて約半世紀の店、「百番食堂」。この店を切り盛りするのが小原夫妻です。地元で店を開きたいとの里司さんの思いを恵子さんが支え、二人が結婚した翌年の昭和44年に開店。現在の店舗は48年に新築したものです。名物料理の一つ「はっとう」は恵子さんが母から受け継いだ昔ながらの味で「25年くらい前から店で出している。水沢

からよく食べに来る人もいます」と里司さんは味に自信をのぞかせます。ほかに、たっぷりの野菜と頭付きの工ビが乗った五目ラーメンや豚汁定食が人気だそうです。二人は地域活動などにも積極的で、里司さんは衣川商工会の発起人の一人にして最後の会長、恵子さんも商工会婦人部の会長を務めるなどしてきました。そんな活動の中で思い出深いのは、平成15年の富士山登山。当時、衣川登山の会の会長だった里司さんに誘われ、夫婦で参加した恵子さんは「高山病で死にそうになりました」と苦労を思い出して笑います。二人は再来年に金婚式を迎えます。「いつも苦労を掛けてきた。感謝のみです」という里司さんに、感謝されるようなことはない謙遜する恵子さん。そして「健康でいてください」と里司さんの体をいたわりました。



菅原 俊輔 くん  
(水沢区・黒石小学校5年)

Interview

## 夢 トーク ⑦ 将来の夢は「バドミントン日本代表」

——学校での役割は？

児童会長です。6月は、児童が自分の自慢を披露する自慢大会の準備をしました。

——普段、どんなことをして遊んでいますか？

学年関係なく、誰とでもドッジボールをしています。2年生のとき上級生がしているのに誘われて、今でもみんなで続けています。

——いちばんの思い出は？

森林教室で行った金ケ崎町の県南青少年の家で、ニュースポーツのピロポロをしました。

楽しかったです。

——好きなスポーツは？

バドミントンです。スポーツ少年団の水沢ブラックキッズに入っています。父が経験者で、2人の姉もやっています。去年の東北大会岩手県予選会では、優勝することができました。

——将来の夢を教えてください。

バドミントンの日本代表になることです。テレビや本で選手を見てカッコいいと思い、3年生のときから目標にしています。集中して練習し、バックが苦手なのを克服したいです。



中高生の部活動や  
委員会活動を紹介

## 青春讃歌

水沢第一高等学校  
クッキング部

◎部員数 35人  
◎顧問 大内 玲子 先生  
◎部長 小原 菜々 さん(3年)

## 経験は関係ない 楽しむことが上達のこつ

平成24年に同好会として発足し、27年から部となった水沢第一高等学校クッキング部。昨年の県ふるさと食品コンクールでは学校部門で優良賞を獲得するなど、実績を積み上げてきました。

調理科のある同校ですが、クッキング部の部員のほとんどは普通科の生徒です。「入部するまで料理をあまりしなかった人も多し。私もそうでした」と語る部長の小原菜々さん。経験も腕前もさまざまな部員たちは、平日はマドレーヌなどのお菓子類、土曜日は食事になるような料理を、学年関係なく仲良く楽しんで作っています。部員たちからママと慕われる顧問の大内玲子先生は「料理は感動と驚きの繰り返し。授業では学べないことを学習している」と料理を通じて部員たちが成長していることを実感し、

校外にその頑張りが見られることを願っています。

そんな部員たちが力を入れていることのひとつが「みずいちはっとう」です。前沢牛が入っているのが特徴で、昨年の

ＪＡまつりなどに来店し好評を博しました。希望郷いわて国体にも出店を予定するなど、これからも積極的にＰＲしていくことを考えていて、市内でイベントがあるときは声を掛けてほしいとのこと。「みずいちはっとうが知られていくのがうれしい。挑戦していきたいですね」と意気込む小原部長でした。



2月にメイプルで行われたN-1フェスティバルの様子

先月は、焼石連峰と阿原山高原、そして種山高原の山開きのほか、前沢牛まつりと野外イベントが盛り沢山でした。希望郷いわて国体リハーサル大会の馬術競技が水沢競馬場で開催され、10月の本大会に向けて運営の確認などを行いました。水沢農業高校の生徒や市民ボランティアが競技補助員を務め、大会を支えていただきました。大会では本県代表の黒須選手が2冠を達成するなど好成績をおさめています。また、県民体育大会に出場する奥州市選手団の結団式が開催され、国体につながる活躍が期待されます。本番成功に向け準備を進め盛り上げてまいります。

ＩＬＣシンポジウムがＺホールで、東北ＩＬＣ推進協議会総会が仙台で開催されました。シンポジウムにはパネリストとして出席し、ＩＬＣ実現による本市の未来について語り合いました。東北ＩＬＣ推進協議会の総会では政府の誘致決定が平成30年3月と見込まれることから、受け入れ体制の強化として「東北ＩＬＣ準備室」を立ち上げ、広報活動や、地元負担経費の試算、財源確保戦略などの課題を検討することになりました。市においてもＩＬＣを確実に誘致できるよう準備を進めてまいります。



奥州市長 小沢昌記